

■座談会 兵庫県いけばな協会創立50周年によせて

## 日本の伝統文化「いけばな」

### 流派をこえて共通認識をもつ時代に

出席者

佐伯 一甫

〈未生流（庵家）家元・兵庫県いけばな協会相談役〉

吉田 泰巳

〈嵯峨御流神戸司所長・兵庫県いけばな協会相談役〉

中山 景甫

〈未生流中山文甫会会長・兵庫県いけばな協会会長〉

肥原 碩甫

〈未生流家元・兵庫県いけばな協会副会長〉

西谷広円齊

〈未生正流家元・兵庫県いけばな協会副会長〉

梅田 一甫

〈御室流副事務長・兵庫県いけばな協会事務局長〉

昭和二九（一九五四）年に創立された兵庫県いけばな協会は、今年、創立五〇周年を迎えた。流派を越えて、県内のみならず全国のいけばな振興に貢献し、また社会事業にも取り組んできた兵庫県いけばな協会の歩み、いけばな界の現状、そしてこれからの夢を語っていただいた。

#### いけばな界をまとめた 小原豊雲先生の指導力

梅田 まず、兵庫県いけばな協会創立当時のお話から始めたいと思います。現在の会員の先生方の中でも、創立当時からおられる方はそう多くはいらっしゃいませんし、本日の出席者の中にもおられません。従いまして聞かれたお話でよいかと思えますので、まず吉田先生の方から、初代会長である小原豊雲先生の時代のお話をさせていただきたいと思えます。

吉田 私の父が、よく、いけばな協会の会合の後で、母にその話をしておりまして、それをふすま越しに聞いておりました。創立のきっかけとしては、まず、兵庫県教育委員会の細井卓也さんという方が、兵庫県美術展（県展）の中で、いけばな展をしたいということで、いろいろと調査したりはたらきかけたりなさった結果、小原豊雲先生のもとにお願いに行かれたそうです。しかしいけばな界というのは、ご存じのとおり流派によっていろいろな思いがあり、商売敵でもあり、なかなかまとまらない。小原先生は当時、全国でのいけばな協会ということも考えていたけれど無理だと、まして兵庫県ではとても無理だとおっしゃいました。が、細井さんの方は、それでも何とかということ、二・三回、小原先生を訪ねられたそうです。結果、始めは慎重だった小原先生も、細井さんの熱意に打たれて、一度やってみようということになったようです。

佐伯 当時、先代家元は京都に住んでおりましたが、細井さんは協会設立協力依頼のために、わざわざ京都まで足を運んでいただきました。とても大変だったんだというお話を聞きました。

吉田 第一回の兵庫県いけばな展は、神戸大丸で、四十数流派の代表が集まって開催されたと聞いております。当時は、小原先生は会長ではなく幹事長という名前でしたがのちに会長に就任され、副会長に広瀬勝代先生、そしてここにおられる肥原先生の父上でおられる肥原康甫先生、相談役に、中山景甫先生の父上である中山文甫先生が就任されました。発足当時はいけばな界でもいろいろと大変だったようですが、小原先生、肥原先生、中山先生、そして吉川秋堂先生と、また神戸新聞社の当時の局長であった国分さん、兵庫県教育委員会の課長などが、いろいろな面でご尽力なさった



梅田一甫さん



西谷広円斎さん



肥原碩甫さん



中山景甫さん



吉田泰巳さん



佐伯一甫さん

と聞いています。

西谷 広瀬先生のご尽力のお話もよく聞いています。事実、神戸の料亭「清雅荘」で創立総会記念で撮影された写真も残っております。兵庫県、神戸新聞社などのいろいろなご尽力と、話し合いがあったようです。お話を聞く中で、やはり発会当時の大変さはよく感じました。我々が三代にわたって会長とのつながりを持ち、グループ意識の中で勉強させていただいた中でも、いけばなが趣味の段階から事業をするという段階に大きく分かれた時期ではなかったかと思えます。

梅田 昭和二十九年の創立当時は、前衛いけばなが華やかなりし時だったのではないですか。

中山 私は協会が創立されて四、五年たつてから入会しましたので、当時相談役だった父が協会のことを話していたのが最初の思い出です。会合というより、よく料理屋などで宴会があつて、その宴席で、小原先生ともお会いしました。

佐伯 発会当時は皆さんが集まつて、よく飲まれたようですね。

肥原 酒席の思い出はたくさんあるようです（笑）。

吉田 小原豊雲先生の最大の功績は、まとまりにくいいけばなの世界を、やはり強烈なリーダーシップでまとめ上げてくださったことではないでしょうか。その次の会長だった肥原康甫先生の時代は、その当時若手であつたばかりを伸ばしていただいた時代じゃないかと思えます。若手が伸びるようにしていただきましたね。

西谷 肥原先生にはよく飲みに連れて行っていただきましたね。非常に温厚なイギリス紳士で、ダンスも上手でいらつしやいました。

佐伯 あいさつだけして、あとは好きなようにやりなさいという感じでした。

中山 ある程度役員に任せて、私はトップにいて責任はとりますという方でした。我々は文句をつけられたことはまずなかったです。

吉田 肥原会長時代がなかったら、今の協会はないと言つても過言ではないと思います。

西谷 いちばん活動的な時代でした。いけばな界も全盛を迎えていた時代でした。

梅田 三代目は西村雲華先生が会長になりました。

吉田 小原、肥原時代にちかわれたものが花開いたときですね。協会自体が、兵庫県文化賞、神戸新聞社の平和賞をいただきました。

梅田 次に、布藤虚生先生が会長に就任され、私が理事にさせていただいたのもこの時期です。

吉田 この時代、幹事をできるだけ若手に代えようという動きがあったときですね。

中山 布藤先生は、当時あった「ぞくの会」という若手のメンバーが集まってできたいけばなのグループで、そのメンバーの中で一番年長者でしたから、我々はぜひ布藤さんが会長にと推薦しましたね。

肥原 西村先生の時代から、協会もいろいろな事業を行なうようになりましたね。兵庫県いけばな協会ならではの事業なども多いですね。

梅田 ボランティア活動なども行ないましたね。老人ホームや障害を持つ人々の施設等に訪問する「花慰問」、協会の周年ごとに行なう兵庫県・神戸市等の施設への「記念植樹」も現在まで続いています。

## 世代交代、震災、花博

### 協会が一致団結した時代

吉田 平成元（一九八九）年以降、佐伯先生が会長になられて、その後ぼくが会長をして、次に中山先生、

## 兵庫県いけばな協会 —歴代会長—

- 小原豊雲  
(1954年～1972年)
- 肥原康甫  
(1973年～1979年)
- 西村雲華  
(1979年～1983年)
- 布藤虚生  
(1984年～1988年)
- 佐伯一甫  
(1989年～1993年)
- 吉田泰巳  
(1994年～1998年)
- 中山景甫  
(1999年～現在)

この時代になってくると、強烈なリーダーシップということはなくなってきましたね。というのも、創立時のメンバーがほとんど卒業してしまつて、世代交代が実現したのだと思うんです。今度ははくらの時代が終わるわけだから（笑）、そうなったときに、はくらも小原先生や肥原先生を見習っていかなければいけないと思いますね。

梅田 続いてお話の方は、現在のお話になっていくわけですが、佐伯先生の会長時代はいかがでしたか。

佐伯 第一回ふれあいの祭典が平成元年に行なわれて、それ以降兵庫県下各地で毎年開催し、今日まで続いており、これまでことごとく成功していることは嬉しい限りです。悲しかったのは、小原夏樹さんが亡くなられたことですね。会員ではありませんでした、期待したい方でしたから。

吉田 この時代から、いけばな界自体が、流派数も減ってきて、淘汰されてきましたね。いちばん多いときで、八十三～四流派ありましたが。しかし佐伯先生の時代から、ふれあいの祭典、兵庫県いけばな芸術文化振興会議へとつながり、本当の意味でいけばな協会が一致団結したときでしたね。

中山 いちばんの思い出は、バリ島への研修旅行でした。参加者も多く、とても盛り上って、これも会長の人徳ですね。会員間の輪も広がり、団結心が出てきたときですね。

梅田 続いて吉田先生が会長になり、幹事を複数制にされました。

中山 行革の時代ですね。阪神・淡路大震災もありました。

吉田 毎年大丸で展覧会をしてきて、地震があつて、大丸では無理そうだと、でもこんなときだからこそやらなくてはと思いましたね。個人的なことをいうと、あの年の2月に、有楽町阪急で嵯峨御流神戸司所の展覧会をしたんですよ。必死になってしましたけどね、あの地震のときは、ものすごく力が入ってましたよね。火事場の馬鹿力というのかな、できないことができるんですよ。





兵庫県いけばな協会創立50周年記念展  
(大丸ミュージアムKOBÉ)

いわけです。いけばなは女・子供のやるものだという事になってしまったのは明治以降、婦女教育の中にいけばなが取り入れられ、女性がいけなをするようになってからです。それはいいこと

中山 今だから正直に言うと、あのときは一年間くらい活動中止だと思いましたがね。展覧会のための会議に出るのも、電車がなくて会場に出かけるのに二時間くらいかかりました。

佐伯 あの年は、全員の会費も無料にして、よくがんばりましたよね。

梅田 そして、現在まで続く中山会長の時代に引き継がれたわけですが。

中山 仕事始めが、淡路花博(二〇〇〇年)でした。無事に済んで、自分なりの言い方をすればうまくいったと思います。私の任期の最後のしめくくりは、今年五月に行なわれた創立五〇周年記念展でした。五年前の四五周年のときは親を引っ張り出したのだから、今度は子供を引っ張り出そうという意見が出て、四五歳以下の若手華道家の作品を中心にした花展にしました。遠くは仙台からご出瓶くださった若手作家もおられ、正直言ってこんなにくさんの方にご協力いただけるとは思っていませんでしたから、皆さんにはとても感謝している次第です。

吉田 淡路花博は、いけばな協会としても大きな仕事でした。やはり兵庫県いけばな協会が世間に認知され、当時の貝原兵庫知事もいけばな協会を頼りにしてくれたということでしょうね。もうひとつ、肥原康甫先生の時代に、自由にしなさいといっぱく育ててくれたように、中山先生の時代に、若手が動き出

したと思うんです。若手が仕事をしはじめた。そういう意味で、未来に橋渡しができたのではないかと思えますよ。

## 共通の歴史、美学をまとめ 「いけばな学」を実現したい

梅田 それでは未来のお話、今後のいけばな協会の方

向性についていかがでしょうか。  
肥原 例えば、京都のいけばな協会でも、若手に代わっていつている。兵庫県でもそういうことを考えていくべきでしょうね。兵庫県いけばな協会は五十年という事で、成熟のとき、それぞれの委員会の活動もマニアルが決まっていますね。事業に関してはマニアル通りにしていけばうまうまいきますが、現在、いけばなを取り巻いている環境が、あまり思わしくないですから、そんな今までの路線を、再検討はしていくことも大切ではないでしょうか。

吉田 神戸には、商売の世界でいけばなアンテナショップというものが多く、神戸で試してみても、うまくいったら全国発信しようというのが多くある。日本のいけばな界のことを考えていく中で、兵庫県いけばな協会がアンテナショップの役割を果たしているってはどうでしょうか。それに、ほかがいまだにしつこく思い続けている「いけばなミュージアム」を、ぜひやりとげたい。同時に、今現在「いけばな学」のようなものがな

だったのですが、花嫁修業という形になって他のアートの世界に比べてちがう目で見られるようになってしまった。でも最近では花嫁修業といけばなは全然結びつかなくなってしまう、それでいけばな界が伸びていくのも難しくなりました。それではどうしたらよいのかといえ、やはり「いけばな」というものがどういふものか」ということを、我々自体もきちんと知っておかないといけないと思いますね。しかしいけばなには流派がいろいろあって、考え方がちがうわけで、それはそれでかまわないんだけど、共通する部分もあるでしょう。その共通した部分を集めて、いろいろ研究すれば、なぜここでこうなるのかがわかるのではないかと、そういうことを考えていくときではないかと思ひます。

肥原 今、伝統文化の子ども教室の開催を、国が援助しようという動きがありますよね。教育の現場でいけばなを取り上げてもらうにあたって必要な、共通したいけばなの歴史学というものがない。それぞれの流派の歴史、美学はあるけれど、誰もが納得する共通の歴史などを、きちんと確立していかないと、教育現場で取り上げてくれと言ってもなかなか難しいし、問題がある。

吉田 歴史の中で右か左かわからないところは、いろいろな説があるとしておけばいいわけで、これとひとつに決めなくてはならないことはないんですから。

肥原 現在、若者がいけばなから離れていると、この流派も老年層ばかり目立つといっています。協会も流派の上に成り立っている。共通の「いけばな学」をまとめるのは難しいことだと思ひますけれど、それに取り組まなかったら流派も、協会もなくなってしまうという危機感があります。

吉田 これは、それぞれでも考えていることだと思ひます。でもそれを、共通の場で議論したり考えたりすることがあまりない。

肥原 今の若い人、と言う年代に我々もなってしまうたわけだけど(笑)、今の若年層は、日本の伝統文化というもののからかなり遠ざかっているような気がします。

すね。

吉田 なんか近づきにくい、別世界みたいに思っているかなあ。昔は下駄箱の上にお花があったり、いけばなというものが割と身近にあったでしょう。今はいけばな自体が身近でなくなってきた感じでは。

肥原 そうなると、展覧会のあり方も問題ですね。百貨店の催場での展覧会でいけばな展を見ても遠い存在なのかもしれない。もっと身近ないけばな展ができたらと思います。

梅田 そうですね。先程、「伝統文化子ども教室」という話が出ましたがその点についてはいかがですか。

佐伯 それはもう充実したらいと思います。やはり流派によっても得手、不得手があるでしょう。かんに生けられるのはいいですが、それではおもしろみがないのではないかと思います。やはり苦労して少しづつ学んでいって、ひとつのハードルを越えていくようなことが、伝統芸術に必要なのではないかと思います。

梅田 国がこういった事業をするというのは初めてのことで、今のところ申請団体に講師料、花材費、会場使用料などの補助金がいただけるそうです。それを見逃して行く手はないのではないかと私は思うのです。

中山 文化庁提案の「伝統文化子ども教室」が、一定の期間継続的に教えるに行くことですので、まずいろいろな流派があつて誰が行くのかというのが難しい問題でしょうね。そのへんをどうクリアしていくか、協会でも何らかの方針を考えないといけませんね。

西谷 幼児教育というのとは大変難しく、それ以前の家庭環境もありますし、人間性のある教育といつても幅が広くなかなか難しいわけですが、幼児教育というものに、やつと国や県が動き出したなと思ひます。私も昔、教壇に立ったことがあるんですけど、そのときに女子に、あなたたちは新しい生命を生む可能性を持っているのだから、自分の感性というものを通して勉強して自分を創り上げて、それが家庭教育につながっていくのではないかと話しました。現代のさまざまな





7月7日、ホテルオークラ神戸にて

事件も、そこからつながってしまっているのではないのでしょうか。

中山 いけばな界に関していえば、体験が足りないのではないかと思います。展覧会でも、ただ生けて見せるというだけでなく、その中にデモンストレーション的なことを持ち込んでいくのも未来の展覧会のやり方ではないかと思っています。

肥原 展覧会の中で実際に花を生けてもらうという企画をしようと、けっこう人が集まり、花を生けます。しかしそれが学ぶ方につながってくるかはわからないけれど、ただ展示するだけではない、何かがほしいということは事実ですね。それから、今なぜひけばなが忘れ去られようとしているかといえば、ひとつに、新聞やテレビ、雑誌などにいけばなの記事が載らない。これは我々の側に問題があるのか、なかなか取り上げられない。

梅田 先日、ビデオ撮影をお願いしたのですが、おもしろいものしか撮影しないんですよ。時代背景が大きく左右していると思います。マスコミは新鮮味、話題性に富んだものだけしか取り上げてくれないようでした。原因はいろいろありますが、結局いけばなは話題性に乏しいからではないでしょうか。今後、皆で原因究明し、対処していかなければならない問題だと思います。

吉田 今やっている

展覧会で疑問に感じているのは、競い合っているという点です。お花が並んでいて、私のが一番だとか競い合っているでしょう。従来、床の間のお花が、競い合うということではなかったと思うんですよ。並んで競い合うという西洋的な考え方の展覧会が、今、人々がいけばなを身近に感じない要素になっているのではないかと。マスコミの問題に関しては、この流派載せたらあの流派が文句言ってくるのではないかとというのがあるようですね。フラワーアレンジメントなどをやっている人は、どんなに取り上げても文句はでないけれど、我々は幸か不幸か組織を持っている。本当はこの流派を載せてもどうぞというこでないとだめなんだけど、お互いに足の引っ張り合いをしている点がありますね。

佐伯 今、伝統文化を理解しようという下地が薄れてきていると思います。それに、例えば踊りではどこかで発表するためにやる、いけばなも家庭で生けるために出したいという思いもあるでしょう。技術的に学ぶ人、趣味的に学ぶ人いろいろあっても、そういう下地ができればそれを広げていくことが大切です。先日の五十周年展で若手を呼んだのはとてもよかったと思います。すし、これからの協会のためにはあいつたことをたびたびやった方がいいと思います。

吉田 「伝統文化子ども教室」では、何を教えるにいくのか、その教えは正しいのか、ある流派では正しいけれどもこの流派ではまちがっているというようになったらどうすればいいのかを考えれば、やはりいけばな人が集まって、無理やり意志統一をさせることはないけれど、少なくともこれはいいなと思うこと、誰が考えてもこれは悪いなというところはいは、そんな大枠のことくらいは、そろそろまとめていかなければいけないのだと思います。共通認識のあるものを作っていないのはならない時代なのではないかという気がしています。それから日本初の「いけばなミュージアム」を、我々の誇りとして、兵庫県に創りたい。具体的な話を早く進めていきたいと思います。

□ お笑い先生とボランティア・きもの美人対談

# 二百歳まで 笑って生きよう!

田中くにお あい こ VS 池田乃子  
〈教育評論家〉 〈バルチーダ2001プロデューサー〉

★「商」が「笑」になる  
お笑いに関西から

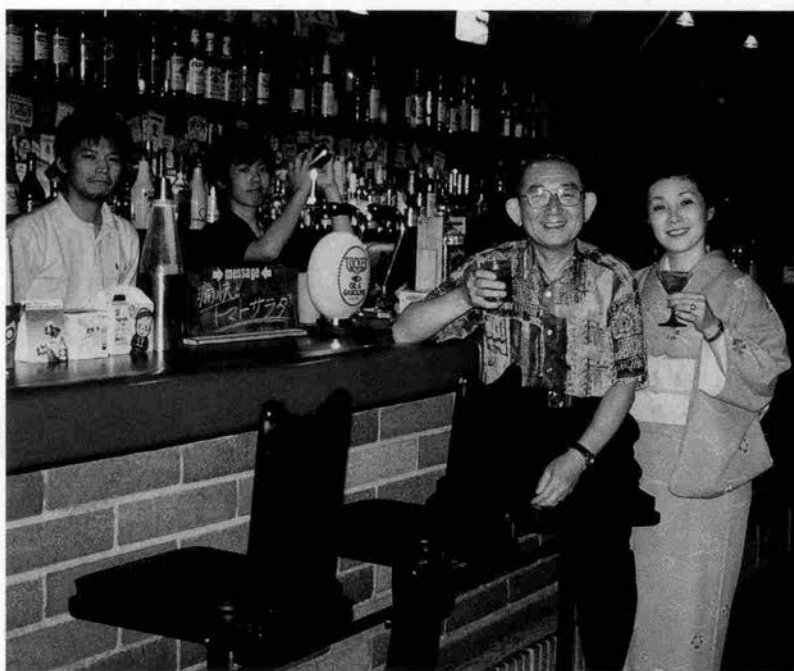
田中 僕は昔から、笑いは関西からしか生まれまいというという持論を持っています。商売人の「商」はお笑いの「笑」ということを鉄則に、大阪人は商売をしているのです。だから人を笑わせながら、よいしょして、勉強しながら金儲けをします。おだてるのがうまいですよ。喧嘩になったときでも、東京の「馬鹿」はどこか冷たいでしょう。大阪の「あほ」の方が温かみがある気がしま

す。関西弁には許せる部分が多いです。ね。初対面でも親しく話せる大阪人の性格的なものも大きいでしょうね。尼崎からはたくさん芸人が出ています。尼崎という土地は、兵庫県ですが、雰囲気やのりはほとんど大阪に近いですね。全国どこの土地からでも、俳優は出てきます。でもお笑いは絶対に阪神間から出ますよ。そういう地盤があるのですから。尼崎も昔は人口50万人以上の賑やかな都市だったのが、いまは人口が流出して、だいぶん減ってきているの

です。もつと魅力のあるまちなっていかねければ駄目なのですよ。ね。

池田 神戸は上品な人と、気さくな人とに別れていますが、私はどちらかというと上品系です。でも先生のキャラクターも大好きなのです(笑)。やはりお喋りは頭が良くなければできないですね。

田中 私の場合、喋り方が少しきついです。それでもみんなが面白いと言って喜んでくれる。人が言えないきついことでも、ずばずばと平気で言ってしまうのですよ。



田中さんと池田さんが訪ねたバーは「Mile Stone」。二人の美男子バーテンダーと、ゆかいな酒飲みが朝まで集まるお店。ご近所からクレームあり(笑)! 営業時間/20:00~翌5:00 ☎078-576-3526





池田乃子（いけだ・あいこ）きもの講師・メナードフェイシャルエステ講師・エレクトーン奏者・バルチーダ2001代表。幼少より音楽に関心を抱き、ピアノ、 Hammondオルガン、琴、胡弓等いろいろな習い事を始める。現在は作詞活動をしながら日本舞踊を意欲的に学ぶ。震災後、人生観が大きく変わる。音楽を愛し、人の心を癒し、平和な世の中になってほしいと「バルチーダ2001」を結成。バルチーダはポルトガル語で「出発」。精力的な活動が期待されると、新聞・ラジオ・雑誌に紹介され注目を集める。

池田 僕も大学の2年生ぐらいまでは、お笑い芸人としてやっていましたよ。師匠についたわけでもないですし、ひとりの漫談家でしたね。しかしいまの時代、吉本のNSCでも10代の子達が集まってくるのですよ。20歳では遅いですね。音楽の世界でも10代の子が歌って売れるのです。そういう時代なのです。私らの歳になると、どれだけ上手くても駄目ですね。

池田 でも吉本新喜劇でも、若い

池田 私も初めてお会いしたときは、圧倒されてしまって、怖い感じがしましたね。私がボランティアをはじめたのは震災がきっかけなんです。東方文化芸術団の、第1回の司会者が私だったんです。その後、プロアマの垣根を越えて、メンバーを集めたのですが、現在では登録が70名、そのうち30名ほどの人が実際に動いています。主に病院、学校ですが、いちばん多いのは老人ホームですね。しかしボランティアで行く老人ホームは、

割と裕福なところが多いのですよ。温泉があったり、なかにはラウンジがあったりすると、そこにはいろいろな楽しみがあります。本来は身寄りのないおじいちゃんおばあちゃんのところに行きたいのですが、どういうわけかそういうところからはシャットアウトされるのです。私自身はそれに矛盾を感じています。ともあれ、自分が心の名指揮者となって、生活と人生の中で「努力」と「休息」と「楽しみ」の交響楽を聡明に奏でていきたいと思っています。



田中くにお  
教育評論家・尼崎お笑い軍団団長  
昭和15年7月17日生まれ。  
近畿大学卒業。大学1年生の時よりプロの漫談家として松竹芸能に入り、大阪の角座、新花月、神戸の松竹座などの寄席に出演。現在、教育評論家として各市町村の教育委員会の関係と教師の指導にあたり、教育問題にも携わる。

★笑わせることの難しさ  
楽しませることの嬉しさ

田中 僕はどちらかというと、次から次に仕事を変えたくないので。教育評論もそろそろ辞めようかと思っているぐらいです。から（笑）。口を使う仕事なら何でもいのですよ。人を楽しませることができれば言うことないですね。でも人を笑わせるということとは、本当に難しいことです。素人にやり続けられるものではありません。話の持つて行き方によって、いかに90分間を納得のいく講演にするかが決まってくるのです。我々プロは、一度失敗すると二度と呼んでももらえないという怖さがあります。だから一回一回が勝負です。その一回一回が、評判となつて広まってくるのです。いままではしょっちゅう神戸に来ていますよ。



子ばかりでやっても、あまり面白くないですよ。

田中 ニ崎で「お笑い大賞」というのをやっているのですが、そこには若手の漫才師や落語家が集まってくるのです。2ヶ月ほど前、集まってきた若い子達をみんな押しのけて、僕が3位になったのですよ。そのときは「高齢者が3位入賞」といって、新聞などでも取り上げられましたよ。減茶苦茶うけたのは確かですよ。1位と2位はもちろん若手ですよ。目的は若手を育てる会なので、1位にはなれませんよね。でもいちばんうけたはずですよ。市長賞はもらいましたからね。

池田 私も人間革命しようと決意し、いろいろなことにチャレンジしています。昨年、朝ミュージカルでは下手ながら主役をさせていただきました。今年は大正ロマンで竹久夢二の恋人役をさせてもらうのですよ。以前に先生が「思いいたらすぐにノートにメモするように」と言っていましたよね。

私は今、作詞もしているので、実行させていたいです。

田中 私の講演会のネタはほとんど新聞や雑誌なのです。常に新しいネタを持っていかなければ、時代遅れになって取り残されてしまいますよ。司会でもネタがいるでしょう。ネタというのは考えて、ど

んどん広げていくものなのです。煙草があれば、その種類を考え、どこの国の煙草か、葉っぱはどこでつくられているのかといった具合にネタはつくられるのです。これは漫才でも講演でも同じです。ひとつのことから、どんどん話を広げていかなければ行けません。

池田 私の場合、楽しくお喋りすることが苦手で、専属の司会者が別にいるのですが、田中先生のおしゃべりを聞きながら勉強させてもらっています。

田中 司会にも挑戦すればいいと思います。神戸は、震災からの復興は本当に早かったですよ。そこにこそ、ボランティアの原点があると思うのですよ。地震の年が、神戸のボランティア元年と言えるでしょう。

池田 そうですね。私たちも震災の年からボランティアをはじめ、数々の困難をのりこえることができ、すばらしい人々にめぐり合うこともできました。

★考えていても仕方がない  
はじめのひらめきが大切

田中 僕は毎晩、スナックや居酒屋に行っています。どれだけ忙しくてもほとんど毎晩どこかで飲んでいますね。とにかくみんなと喋るのが好きなのです。その場だ



喫茶「ニーマ」。娘さんが毎日焼くシフォンケーキ&ワッフルは大好評。営業時間/8:30~18:00 ☎078-579-0703



串かつ「五十一」。串かつ全品100円です。野球選手もよく飲みに来ま〜す!!営業時間/17:00~23:00 ☎078-578-8751



けで喋って、さっと帰るだけで、その日の疲れやストレスが発散できるのですよ。炬端からショットバーまで、人が集まりお酒が飲めるところならどこでも行きます。神戸にはいい店が多いですね。昔から外国人の行く店が好きでよく行っていましたよ。店で飲むだけではなく、うちの家にも、たくさん芸人さんが遊びに来るのですよ。ちよんどのいま現役で活躍している人たちとは、20歳近く離れているから、相談役みたいなもんですね。現役のタレントがみんな、昔のことを聞きに私のところに来るのです。

池田 先生、人生とはいくつもの山を繰り返し越えて、いちばん高い山を越えた人が勝利者となりますよね。谷を下るだけの人を敗北者とする、人生は二通りです。なかには、途中で同じところをぐるぐると回っている人もいます。

先生はこれからどんな生き方をしていくのですか？

田中 僕は二百歳まで生きようと思っているのですよ（笑）。誰しも、人生の岐路には必ず突き当たるものです。岐路に立ったときには、決断がすごく大事なのです。決断は素早くするべきです。物事をいつまでも考えていても一緒です。第一感、ひらめいたことを大切にすれば、それでやって行けるのですよ。そうすれば自然と、それに向かって努力もできるのです。物事、中途半端がいちばん悪い。ひとつのことに向かって、真っ直ぐに突き進まなければいけない。それがゆくゆくは良いことになるのです。信じるのが大事。僕はそうしてやってきました。くよくよ考えても仕方がないじゃないですか。人生楽しく生きていかなければ。

第十九回ASAミュージカル公演（第一部）芦屋ルナ大ホール

平成十五年十月二十五日（土）

じしやうホラ男爵のミュージック・ドラマ シリーズ②

ミュージック・ドラマ『大正ロマン歌絵巻』

《今日は帝劇、明日は三越》（全2幕）

前売券2000円 当日券2500円

★今年は竹久夢二の恋人役彦乃を演じさせていただきます。

（池田乃子）



●座談会／神戸の人気ママが語る  
**神戸の夜を楽しむための遊び方と遊ばせ方**



撮影／米田英男

神戸のクラブ文化を継承していきたいと奮闘するママたち。かつては、ブロ意識の強い、華やかな先輩たちが大勢いた。今、店を経営する立場になり、クラブで働く女性の認識も変化してきたことを実感すると話す。神戸でも指折りの人気クラブのママたちに奮闘記を伺った。

## 華やかなブロが多かった 10年前の神戸の夜

A いまの神戸の、夜の状況や、景気の問題よりも、いまはうち自体がまだまだ女の子の教育中という感じがしています。でも正直なところ、昔のような粋な遊びをする方や、豪快な遊びをする方が本当に少なくなっただけだと思います。私はバブル前から働き、バブル後に経営者になりましたが、お客様の方も変わられ、女の子の質自体も悪くなっていると感じます。自分自身も、どこかで慣れてしまっている部分はありますね。去年、自分の店が10周年ということもあり、おもてなしという原点に戻り、心新たにさせていただきました。自分自身も少し体を壊し、この4年ほどは休みがちでしたが、お店が残っているだけでも、今の時代有り難いことだと思っています。

今年は本当の意味で、やり直さなければならぬ年です。こういう会に声をかけていただき、ある意味、お勉強させていただこうと思いい、参加させていただきました。

B うちの店は、毎回ミーティングする度に、マニュアルが増えていくのですよ。現在約30名の女の子が在籍していますが、ミーティングには必ず全員に参加してもらっています。言葉として一つひとつ書き出さなければ、なかなかわかってもらえないのです。腰のおろし方、頭の下げ方から、水割りの作り方など細かい支持までマニュアル化しています。こういう時代ですから、お金を払って来ていただいているお客様は、癒しを求めていると思います。そのことをわかってもらうために、繰り返しミーティングしているのです。しかし30名もいると、全然聞いていない子も中にはいますよ。同じ事を何度も言っていますが、それを止めてしまうと、女の子もやってくれなくなります。私たちも疲れるのですが、これが一生の仕事だと思い、根気よく続けています。私はまだまだ、ママになって間もないので、自分を高めていき、それを女の子に見せていかなければ駄目なのだと思います。それでも「もういいかな」と思う気持ちが出てきて、それがお客様にも

伝わってしまうこともありました。今年はそういうことがないように、私自身も気を引き締めていかなければと思っています。

C 私はホステス時代が長かったのですが、今回お店をしたことによって、自分がホステスをしていたときはわからなかったことが、逆の立場になってよくわかるようになりました。改めてママの苦労がよくわかりましたね(笑)。いまの女の子たちに聞いてみると、ノルマがなく高給なところが働きやすいと言います。逆にお客さんからは、どう会話していいかわからない女の子が多いと言われます。うちはこじんまりとやっていますが、活気のある店にはしたいのですよ。お客様に来てもらった限りは、楽しんで帰ってもらいたいのです。いまはまだ自分自身も勉強中ですね。お客様個々によって飲み方も違います。落ち着いた感じで飲みたい方もいれば、盛り上がりたてたい方もいます。同じお客様でも、日によって気分は違います。うちの店はまだ、お客様のニーズに対応し切れないですね。

D 私はバブルが弾けてからこの世界に入りました。いまは常識のない女の子が多いとは感じますね。返事をしない子や、「おはようございます」が言えない子もい





山本和子さん

ますからね。私たちも若いときはそうだったのかもれないと思いい、根気よく教育しています。そうしながら自分も勉強しているように思います。お店としても、女の子が足りないからといって、女の子のレベルを下げてしまうのは良くないと反省しています。

E 皆さんが仰っているようなことは、私もひしひしと感じます。私はこの世界に10年前に入ったのですが、10年前は周りにプロが多かったのです。私は、最初はアルバイトで入ったのです。そのときの私の周りにはプロの女性が大勢いて、お客様を遊ばせることが本当に上手でした。きれいというより、華やかな人がたくさんいましたね。いざ指導する側の立場に立ってみると、いまの女の子は、その辺を歩いていて女の子がいるように見えます。これだけの給料を払う子だらうかと、正直感じることはありません。その辺りは、私たちが心がけて、女の子たちにも言っていかなければならないと思います。私たちの時代は、何かアドバイスをされるというよりは見て覚えていった感じがします。今の

子たちは、最初から教えなければ駄目ですね。言葉遣いから、態度まで、全部言っただけじゃ駄目なのです。中には見て覚えてくれる子もいますが、そういう子は一握りもないのが現状ですね。

### 最近の女の子の傾向とプロとしての教育

A うちでは新しく来る女の子には、一日体験をしてもらうのです。よそのお店の子には声をかけませんね。辞めてから来てもらうのが、大前提になっていますから。やっぱり女の子は、見た目がきれいに越したことはありませんが、一番大事なのは笑顔ですね。はじめてすぐに、座っていて「おいで」と言われなくても、「向こうに行け」と言われるような仏頂面ではどうしようもありませんから。まず笑顔から、教育はその後ですね。お

箸の持ち方、グラスの持ち方など、細かい教育が必要ですね。髪を掻き上げたその手で、果物を剥く子もいます。ちょっとした気遣いがあるだけで、お客様も気持ちよく飲んでいただけるのです。それこそ百回言っても三日しか保たない子もいるので、毎日のように、同じことを繰り返していますね。

B なかには例外もあるのですが、大抵の場合、面接の段階でいいなあと思った子は、大体いいで



米田えみさん

すね。はじめの頃は、それがあまりわからなかったのですが、何回も面接しているうちにわかるようになってきました。うちでは合わないけれど、よそでは合う子もいますよ。そういう子には「うちでは合わないね」という話をするのですが、大体向こうから辞めていきますね。

C 実際に入ってみないとわからない部分はあるのですが、うちでは元気な女の子を望んでいますね。見た目だけではないので、一日ではちょっとわからないことも多いのです。一日、二日では、女の子も緊張している子が多くて、わからないのですよ。だからせめて一週間、半月ほど様子を見て、こちらから女の子の個性を引き出してあげるようにしています。

B 最近はお金に苦労している子はいませんね。遅刻しても、時給がついてないからいいぐらいに思っている子も多いですよ。

A まず食べ物にも欲がないですよ。私たちは同伴なんですごく嬉しかったし、毎日美味しいものが食べれると思っていました。お昼に会社周りなどとしてき

ました。それが最近の子はないのですよ。お寿司よりも、ファーストフードでいいという子が多いのです(笑)。どんな食生活をしてきたのだらうと思いますね。

D うちは女の子同士が仲良すぎるぐらい、アットホームな雰囲気なのですよ。とてもいいことではあるのですが、ライバル意識や、自分がいちばんになるといった欲が足りないのです。店のなかで足の引つ張り合いをするよりはいいのですが、バランスが難しいところですね。

E まだ私は数人しか面接していないのですが、10代の女の子で多いのが、はじめの出動日に連絡なしに来ない子がいるのですよ(笑)。一言「無理です」とか言ってくればいいのにね。うちの店も和気あいあいとしすぎているところが、駄目なところでもあるのですよ。

## 神戸の夜を楽しむための遊び方と遊ばせ方

D いまの子は、自分に欲がない



黒木ヒロ子さん



上田真琴さん

ように見えますね。誰よりもお洒落になろうとか、誰かに憧れたりとか、同伴10回目標にするといったことを考えないようなのです。そういうことを言うと、「そんなことしなければ駄目なのですか?」と言うのですよ(笑)。

A いま思うと、私たちの頃は、最初のうちは着物のローンのために働いていましたよね(笑)。いまは面接の段階で、「貸衣装ありますか?」という子が多いですよね。「キャバクラじゃないのよ」と言って、笑い話によくするのですけどね。

C お洒落をしようという感覚がない子が多いですよ。雑誌を見てこうなりたいかと思ったものですが、雑誌もそれほど見ないようなのです。

A 若くてもしつかりしている子も、なかにはいるのですよ。家庭環境の差なのでしょうね。一緒に食事に行くとすぐにわかるのです。食べ方、箸の持ち方など、酷い子もいますからね。

C お客様に喋りかけてもらわなければ、お話ししない子も多いです。喋ってくれる人はいいい人、

喋らない人は嫌な人と、すぐにはつきり出ますね。お客様を遊ばせるのではなく、遊ばせてもらわないと駄目なのですよ。でもお客様のなかにも、ボトルが減るのが嫌で女の子にお酒を飲ませない人もいますよ(笑)。そういうお客様は正直しんどいなあと思いますね。飲みに来た限りは、その場限りでも気分良く遊んで欲しいですよ。みんな飲みなさい」という豪快な人は嬉しいですね。私たちの頃は、お茶なんて飲ませてもらえなかったですから。

A それが苦ではなかったですよ。アフターが当たり前の時代もありましたから。今はゴルフだけまわって、同伴はなしというお客様さんもいますよ。今は切り離して考えられている部分も多いですね。

C 延長するお客様さんはじめからわかりますよ。せっかくの時間ですから、女の子も、お客様も楽しく過ごせるのが一番ですよ。

(新神戸オリエンタルホテル

「シニール・レゼール」にて)



濱田雅香さん

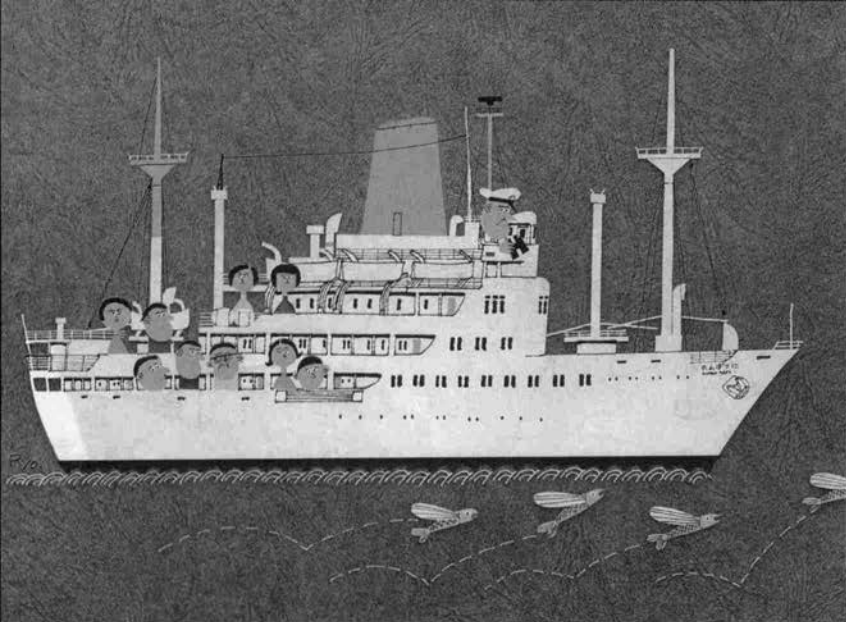


# 海船港

魅力あるウォーターフロントづくり その①

文・上川庄二郎

絵・柳原良平



にっぽん丸

神戸港は、歴史的にみると古くは大輪田泊として奈良時代の高僧・行基が定めたとされる。その後も大輪田泊は、数回にわたって修築が行なわれた。ここに目をつけた平清盛は、都を福原に遷すだけでなく、この大輪田泊を大規模に修築して日宋貿易の拠点にし、貿易による利益を一手に握ることになる。今日の神戸の国際貿易港としての地位もこの時期に固まった。

足利義満は、室町幕府の財政安定のために大輪田泊Ⅱ兵庫津を利用して対明貿易を盛んにしたが、一方では、遣明船もこの兵庫津から多く出帆した。

江戸時代に入ると、菱垣廻船そして灘の酒を江戸に運ぶ樽廻船が盛んになった。一方で、北陸から山陰沖を通り瀬戸内に入るという西回り航路が発達し北前船が活躍するようになる。こうして繁栄を続ける兵庫津に、江戸中期、高田屋嘉兵衛が淡路の都志（五色町）からやってくる。やがて辰悦丸を建造し、函館から国後、エトロフまでの航路を開拓した。また、幕末には、神戸海軍操練所が開設され、坂本龍馬が、この訓練責任者として勝海舟の片腕となり敏腕を振るった。

このように古くから海・船・港によって支えられてきた国際港湾都市神戸。ところが、その国際港湾都市の旗印が、今揺らぎ始めている。それでは、そんな国際港湾都市神戸をどのようにして再生したらいいのか、これから五回にわたって書いてゆくこととしよう。

## ★世界の中の日本、日本の中の神戸

慶応3年12月7日（1868年1月1日）朝、旧生田川尻右岸近く未完成の居留地の一角で、波止場に程近くようやくできあがった和洋折衷ガラス張りの運上所において開港式が挙行された。当時の兵庫地区は人口は2万の商家を中心とする港町であったが、いま中心部になっている神戸地区は、西国街道沿いに10000戸に満たない人口36000人と言われる農漁家があって、海辺は一部が船入場、他は砂浜にすぎなかった（神戸開港百年史）。

この地域が、従来の神戸区に葺合村、荒田村を編入して神戸市となったのは、それから21年後の明治22

(1889)年4月1日のことである。その時の人口13万4704人。その神戸が、港勢の発展とともに、明治末で40万人の万台を越え、昭和14年には、遂に100万の万台を突破する。戦災により、一時30万人台にまで減少した人口も、昭和30年には元に回復し、震災前の平成6年には過去最高の150万人を超えるところまでになった。

こうして神戸港は、わが国産業経済の発展とともに港勢を伸張り、名実ともに“人”“もの”“情報”すべてを港として、日本一の港であるばかりでなく世界の3大港湾にまで成長発展しその名を轟かせた。この頃の神戸港は、まさしく神戸の台所を担う一枚看板で、神戸経済の70%を潤すと言われていた。したがって、その頃の銀行や損保会社の神戸支店長は、今と違い役員支店長だった。一方では、港の繁栄とともに、鉄鋼、造船業も華やかとなり神戸の絶頂期を迎えることになる。まさに、神戸は、海・船・港によって支えられてきたまちである。

しかし、その神戸港、否日本の港湾にやがて落日の兆しが見え始めてくる。その第一が、航空機時代の到来とともに“人”“と”情報”が港から離れていったことであり、次いで、高度成長期を経、自らが“もの”を造らない国になり、生産拠点を東南アジアから中国へと移していった。日本は、物流拠点としての港湾の存在すらも危うくしている。今や、世界の港はアジアに集中し、香港、シンガポール、釜山、上海、高雄、深圳と1から6位まで(2002年)を占めるに至った。神戸をはじめ、日本に58もあるコンテナ港全部合わせても香港やシンガポールの貨物量の2/3、神戸港など5大港合わせてやっと釜山一港分に相当する位でしかない。詳しい数字は紙面の都合で省略するが、惨憺たる数字であることは間違いない。

さらに時は移りバブルが弾け、とする間に、IT革命が起り、日本の頭脳部分はどことく東京に集中するところとなっていた。さらに加えて、失われた10年といわれる間に、金融機関の大合併が進み、その資本系列の企業までもが右にならえて東京一極集中

を加速させているのが日本の現状である。これも詳しい数字は紙面の都合で省略させていただくことをお許しいただきたい。

一方、情報産業の世界的に急速な発展・進歩は、空港までも魅力のないインフラにしてしまう。つまり、空港も情報の港ではなくなりつつあるということである。アメリカやヨーロッパでは、航空機も大衆化され、高度な情報を持つビジネスマンは、商業航空を利用しなくなり、家用機時代に入っている。アメリカでは、1万機、ヨーロッパでも数千機保有されているといわれているにも拘らず、相変わらずわが国ではビジネスジェット機の受け入れには消極的である。これでは、生の情報は入ってこない。

このことは、日本での国際的なコンベンション開催回数(2001年)の少なさにも現れているように思えてならない。すなわち、アジアでは、シンガポールが1200回(世界5位)、ソウル1009回(同8位)と健闘しているのに比し、東京一極集中が進んでいる日本では、その東京にしてソウルの半分以下の46回(同33位)、大阪20回(同90位)、神戸に至っては13回(同順位不明)と何とも寂しい限りである。

さらに観光面から見ても、日本は大幅な観光輸出国となっている。2002年に日本を訪れた外国人観光客は、520万人強、これに対して、出国した日本人は、1650万人強と大幅な観光輸出国となっている。これを金額に直すと、3兆6000億円の赤字といえる。これからこれまた大変な数字である。しかも、この少ない来日外国人のうち、神戸にはたったの4・3%(約22万人・全国9位)しか来ていない。これでは、折角の国際港湾都市神戸の看板が泣くというものである。こんな神戸の現状を、どうして再生したらよいのか。次回以降で考えてみることにしよう。



■かみかわ しょうじろう  
1935年生まれ。神戸大学卒。  
神戸市に入り、空港対策室長、消防局長を経て定年退職。現在、関西学院大学、大阪産業大学非常勤講師。



「すべての記憶をよみがえらせる薬」  
というのを つくたでしょ  
ひとつ くださらない  
おもいだせないことがあるの



1

わたさないほうが いいんじゃないですか  
きつとよけいなことまで おもいだしますよ

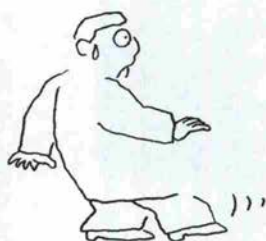


2

ああ これね いただきわ



3



4



5

いったい なにを  
おもいだしたんだろう



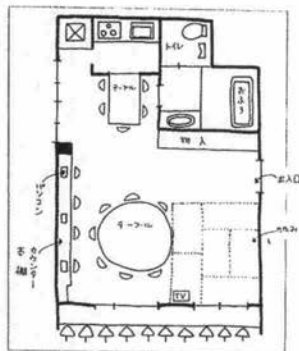
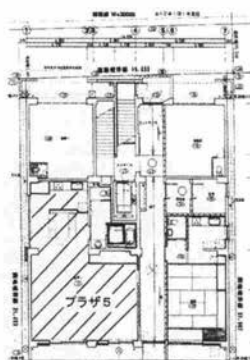
6



震災復興のアーバンデザイン・その7  
**被災地復興に  
最も必要な場所**



みくら5と公園



プラザ5の内部



プラザ5ふれあい喫茶（まちこみHPより）



小林郁雄  
コー・プラン代表

住宅などを個々に再建するのではなく、敷地を一箇所に集め「共同化」による再建が、多くの震災復興区画整理地区で進められており、神戸市長田区の御菅西地区では共同再建住宅「みくら5」が建設された。

個別では敷地が狭すぎる場合や共同化ビルによる余剰床（保留床）を処分することによる事業費補填などが、共同化のメリットである。実はそれだけではなく、共同化は個々の権利者の合意形成が不可欠な、最も小さな「まちづくり」でもある。

さらに特徴的なことは、通常の共同住宅（分譲マンションなど）では、共用部分を最小にすることが至上（市場）命令であるが、共同化再建では多くの場合、共用室などが何らかの形で計画される場合が多い。特に、震災復興再建でそうした事例が多く見受けられる。コーポラティブ住宅やコレクティブ住宅と同じように。

共同再建住宅「みくら5」では、それは1階に設けられた85㎡の「プラザ5」である。ふれあい喫茶、ボランティア・まちづくり学習、お風呂・調理場・会場・宿泊、各種講習などが、「まち・コミュニティ」を中心とした地域NPO組織によってそこでは繰り広げられている、コミュニティプラザである。

神戸の  
モダン  
リビング

●女流建築家シリーズ  
**なぎさ小学校**



中川 健子  
株式会社アルプラン  
代表取締役



- ① 瓦葺きが美しい二階建
- ② 風見鯨が楽しい中庭の塔
- ③ 光りあふれる海のイメージ
- ④ 自然とふれあう優しい空間

三年前に竣工したなぎさ小学校・場所はHAT神戸です。震災後、瓦葺きの建物が減少し、寂しい風景になりました。子供たちに瓦葺きの美しさを知ってもらいたくて、なぎさ小学校は瓦葺きの二階建ての建物にしました。そして屋根の頂上には、うなぎ、はと、りす等のオブジェを乗せました。瓦工場のオーナーの作品です。中庭の塔に、風見鶏ではなく風見鯨をつくりました。

バルコニーの手摺、ルーバーには木材を使い、暖かい手ざわりのある、大きな屋根の大きな家、地域の核となる建物をつくらうと思いました。

一階のホールに、海をイメージするステンドグラス。光を通して青い影が白い壁に落ちてきます。廊下の片隅にアルコーブを設け、テーブルとベンチを置き、子供たちのおしゃべりコーナーにしました。中廊下にはトップライト。光と風が抜けるさわやかなスペースです。

一階の低学年の教室の前にバールと木製デッキ、ぶどうやキウイを植えました。

敷地が狭いので、体育館の屋上に、プールを設置しました。青空と六甲山を見ながら泳ぐと気持ち良いでしょう。

竣工後、お会いした校長先生の「大切に維持します。」という言葉。うれしい言葉でした。





西村 隆治  
1945年生まれ。1973年京都大学大学院法学研究科博士課程卒。  
74年沢の鶴株式会社入社。84年、代表取締役社長就任。  
神戸経済同友会常任幹事など多数歴任。

## 神戸J C先輩・後輩対談⑨

# J Cは若手の経済団体 行動力と辛口の発言力を

西村 隆治

(第24代神戸青年会議所理事長・沢の鶴株式会社代表取締役社長)

キラン×S・セティ

(2003年度社団法人神戸青年会議所理事長)

震災復興から10年目を迎える2005年に神戸空港が誕生する。20数年前に神戸空港の市会決議白紙撤回を求める運動など、市政に積極的な活動を行ってきたのが、24代理事長の西村隆治氏。一つの経済団体として、その伝統を受け継いで欲しいと話す。

創立50周年に向けて  
気持ちを新たに

西村 45周年の式典では、懐かしい顔がたくさん集まりましたね。我々は、J Cを卒業して長くなりますが、J Cで培った考え方は、常に持っているように思います。

キラン 創立45周年式典は、50周年に向けて、気持ちを新たにす

場という思いが強かったですね。

今回の式典には650名ほどの方々に来ていただきました。そのなかで、J Cとまったく関係のない人は、たったの10数人でした。そういう意味では、本当にオール神戸J Cに絞った会だったと思います。

J C関係以外の多数の方にお越しいただくのは、50周年のときにできればいいと思っています。シニアクラブの皆様にも200名ほど来ていただきました。本当に有り難いことです。いまだから言えますが、大変なプレッシャーでしたよ(笑)。

西村 僕は24代の理事長だったのですが、プレッシャーを感じた記憶はあまりないですね。前年から副理事長として空港問題を担当していたのですが、「海から空へ」というテーマがすでにありましたし、有識者アンケート等、活動をしていましたから。神戸市議会でも空港に対する反対決議がありまし



キラン・S・セティ  
ピッツバーグ大学経営学修士修得。㈱ジュビターイン  
ターナショナルコーポレーション取締役専務。2003年  
度、(社)神戸青年会議所第45代理事長。

たが、その撤回運動の中心にJC  
がいたのです。3月に請願書を提  
出したのですが、5月には反対決  
議が撤回されました。だから僕が  
理事長の年は、ターゲットが非常  
にはっきりしていたのです。

8月には1日から1週間、『J  
Cウィーク・イン・神戸』夏の集  
い』というのをやりました。翌年  
からのサマーフォーラムの原型で  
す。各委員会に對外事業をしても  
らったのです。空港問題からまち  
づくりまで、様々な問題を取りあ  
げました。この当事でメンバーが  
253人でした。このJCウィー  
クに向けて、メンバーの例会出席  
率は上げていきなかったのです。  
結果は98%、病院から抜け出して  
きてくれた人までいました(笑)。  
キラン ここ数年、神戸以外でも  
JCメンバーの数は減っていく傾

向にあると思うのです。全国でも  
5万人を切っています。神戸だけ  
を見ても、世界会議の頃は450  
人近くのメンバーがいたのが、い  
まは250名ほどです。今年はメ  
ンバー拡大の活動をしたのですが、  
経済環境も含めて、積極的に全員  
が活動してくれるとは限りません。  
減っていくのはなぜかと考えると、  
いまは昔に比べると、NPOなど  
様々な他団体ができています。商  
品と考えると、それだけ競争力が  
上がっていることになります。J  
Cだけに参加している人も少ない  
と思うのです。だから出席率も70  
%前後といったところでしょうか。  
西村 例会出席率については、僕  
が現役の頃でも、いい年もあるば  
悪い年もありました。あまり難し  
く言わなくてもいいのではないか  
という気はしています。例会より

も委員会の方が問題ですね。委員  
会にもまったく出てきていないと  
いう人は、友人関係が形成されて  
いないと思います。それはちょっ  
ともったいないと思いますね。た  
だ会員が減少傾向にあることは、  
なにか考えていかなければならな  
いのでしょね。JCとして質の  
いい活動を続けていくことが大事  
だと思います。

キラン それと、JCを経営団体  
として、再認識してもらいたいの  
です。横のネットワークを広げて  
いきたいのです。

西村 経済団体として社会活動を  
していくという視点は、大事だと思  
いますね。若手の経済団体なの  
で、他の団体から見ると、やはり  
行動力と辛口の発言が、期待され  
ていると思います。

キラン 先輩たちがはじめた空港  
の問題に関しては、まちの有効な  
資産としての空港を、どう利用す  
るかを議論していきたい。

西村 私も理事長をやる前の19  
80年に、都市開発の委員長をや  
らせてもらったのです。提言をい  
くつかしたぐらいのものです。が、  
そのなかで「パークシティ神戸」  
というものを提言したのです。後  
の「ガーデンシティ」と同じ発想  
ですね。そのときに「都市開発を  
する心」について、みんなといろ  
いろな議論をしたのです。





対談を終えて握手する西村社長とキラン理事長。沢の鶴株式会社にて。

いま僕は灘区のまちづくり委員会に入っており、また「酒蔵のまち」づくりをしています。その基礎をＪＣで勉強させてもらったと思います。

## 自然とまちへの 感謝の気持ちが大切

**キラン** 昨年、夏から５月に移った神戸まつりの代わりに、神戸港に感謝をささげ、さらなる繁栄を祈念するために「みなとまつり」を立ち上げたのです。それを継続させていく意味でも、今年はＪＣで型をつくり、来年以降、誰かが引き継いでいけるような祭にしたいと思っていますのですよ。

**西村** ウォーターフロント開発も、商工会議所の運動の原点になっていますから。これから盛り上がっていくのではないかと思います。



神戸空港の市会決議白紙撤回を訴える市民集会

神戸まつりも、「神なき祭でないじゃないか」という意見もありますが、大事なことは、自然に感謝するということだったと思うのです。ただ集まって騒ぐだけでは本当に意味がないですよ。もう亡くなられた方なのですが、世界を回っていたある商社の方が「世界で一番良いところは、地中海とリオデジャネイロ、そして阪神間」だと言っておられました。それが僕にとっては非常に印象的でした。やはり感謝する気持ちは大切だと思っています。だから僕は、神戸の街をもっと美しくしてもらいたいです。灘区も震災後、まちが汚かったのですが、区民全体で第３火曜日に掃除することにしたのです。それには高校生、中学生も参加してもらっているのです。大人と子どもたちにもまちに誇りをもってもらいたいと思っています。

**キラン** 僕らが子供のときに、親がしてくれたことを、いまの小学生はやってもらっていないように思うのです。子を持つ親にもっとまちのことを知ってほしいですね。

**西村** いまのＪＣが取り組むべき問題のひとつに、教育問題があると思うのです。何らかの形で、教育問題に対して、ＪＣから辛口の提言をしてほしいのです。

**キラン** 今年は、具体的な青少年育成事業がないのです。それには理由があって、子供たちの前にまず親に教育への意識をしてほしいという思いの方が強かったからなのです。それも人の親に何かを言う前に、まずはメンバーから認識していったほうがいいのです。

そういう意味もあって、家族交流事業をメンバーに企画してもらったことになりました。子供と触れ合う機会をつくって、それが青少年事業の新たな一歩になると思うのです。

**西村** それから、教育問題の他に、もう一つ取り組んでもらいたい事として、行政改革、地方分権の問題があります。日本ＪＣが一番やらなければならぬ問題だと思っています。分権は進んでいきますから、その時にどうしていくのかを考えなければなりません。ＪＣのメンバーは、レベルの高い人が集まっていると、僕は思っていますから、他ではできない提言をしていってほしいですね。

# 隠れ家的なお店づくりをめざして 「神戸六花仙」で奮闘する若女将

神戸六花仙 女将 神崎恵子さん



旬の食材を使った天ぷら料理のお店「神戸六花仙」。現在、若女将として奮闘するのが、神崎恵子さん。「神戸六花仙」に彩りを加える神崎さんにお店づくりの期待を伺った。

「飲食業につかれましたっけはど  
ういうところにありますか

神崎 知人を通じて5月からこちらで働くことになりました。元々、飲食業には興味があり、学生時代のアルバイトも就職先も飲食業でした。10年ほど企画会社に勤めたことが大きな転機になりました。その時に、淡路島の漁港のブラン

ド戦略に携わってきました。淡路島は魚の宝庫です。漁港でとれる魚はほぼ全種類食べてみましたね。魚は料理によっていろいろな食べ方があるのです。魚料理に関するノウハウを身につけましたが、今度は、実際に魚の料理をお客様に召し上がっていただきたいと考えるようになったのです。

「六花仙のメニューで工夫されていることはありますか

神崎 現在、いろんな方のニーズにあわせて、メニューにないお料理もお出ししています。天ぷら懐石がメインですが、その他、焼

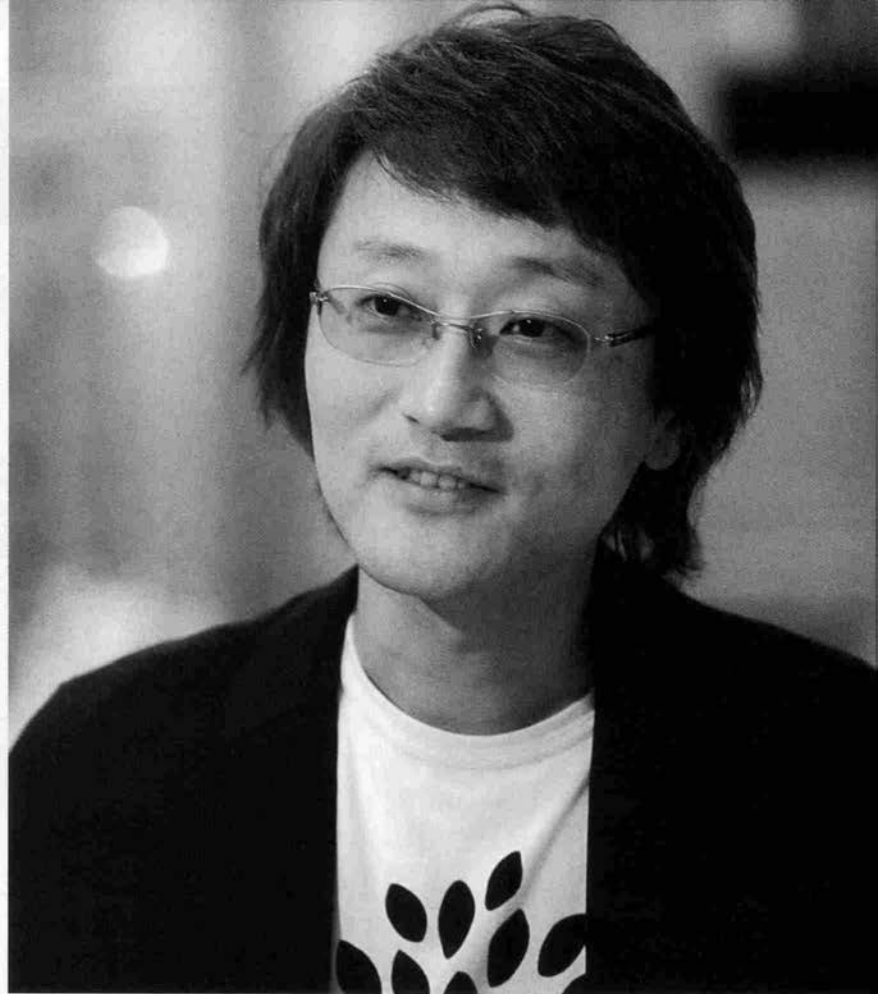
き魚や肉料理などもあります。今後は、季節の素材を使った一品料理などを増やしていきたいですね。また、食べたいと思わせるメニュー。目に見えて訴えるようなものもこれからは必要ではないかと思っています。また、新規のお客様が入りやすいお店づくりをめざしています。まだまだ知名度が低いので、これからどんどん増やしていきたいですね。お料理が好き、食べることが好き、そういった方にゆっくり時間をかけて、ゆとりをもったサービスをしていきたいと思っています。本当においしいものを食べて喜んでくださるときの笑顔というのは、何事にも得がたいものです。お客様にとって、隠れ家的なお店になればと思っています。

神戸六花仙  
神戸市中央区加納町4-8-15  
AMUプラザ1F  
☎078-1333-6613



天ぷらをメインにしたコース料理





次代を創る  
神戸のニューリーダー

10

金指光司

株式会社ポトマック  
代表取締役

大人の感性と子供の感性を融合させ  
ファーストインブレーションを形にする

カフェやレストランの展開に新風を吹き込む(株)ポトマック。

“トゥーストゥース”といえば、今や新しい神戸のブランドとして脚光をあびる。

金指社長が肌で感じた感覚をそのまま空間づくりに活かしている。

金指 光司（かなさし こうじ）

1963年神戸市生まれ。

84年兵庫県立兵庫工業高校卒業後、大阪デザインモデルセンター、

株若草を経て、86年「レストランパー・トゥーストゥース」開業。

99年株式会社ポトマックに組織変更及び商号変更。

## 震災を期に 食とサブカルチャーの融合

この3年間ほどで、都会のレストランの様子が、随分変わってきたと思います。細かいデザインや自然の取り入れ方、グラフィック、食器類など、いろいろと変わってきています。四角いお皿なども当たり前のようになってきましたからね。どのように流行を感じ取るのかと、よく聞かれるのですが、要は好きだからという以外にありません。車好きの人は、車についてとても詳しいですよ、それと同じことなのです。人から見れば勉強しているのかも知れませんが、自然に情報が入ってくるのです。

震災がいちばんの変化になりましたね。震災以前は、トゥーストウスの周りには、写真のギャラリーやバーなど、トアウエストの成り立ちに近い、サブカルチャーの店が多かったのです。ですからお客さんも、業界の人など、ストリートカルチャーが好きなコアな人たちが集まってきたように思います。ところが震災でうちの周りの店がつぶれてしまったのです。トゥーストウス本店だけが残り、せっかくなに残ったのだから、そこで

何かやろうと考えたのです。震災から早い段階で店をオープンし、焼き肉定食や鮭定食などを出したのですが、コアなお客さんではなく、おじいちゃんやおばあちゃん、家族連れなどが来てすごく喜んでくれるのです。そのうちコーヒーを出し、ケーキを出し、普通の飲食店として盛り上がりつつあったのです。震災を前後に、サブカルチャーから飲食に移行したのです。ですから自分たちのコンセプトには、その両方が混在しているのだと思います。震災時には神戸の有名レストランや、ホテルのシェフなど、それまで関わりがなかったスペシャリストとの交流ができました。飲食店であるのに、食に弱かったのが、その辺から、本格的な食にのめり込んでいったのです。

これまでに失敗は、数え切れないほどしてきましたね。商売されている人ならみんな同じでしょうけど、資金繰りには本当に苦労しましたね。(笑) 震災後、トゥーストウス自体が話題になってきた頃でも、若い人中心の支持で、銀行などにはまったく信用がありませんでした。あと100万あれば次に進めるのに、その100万を作ることが大変なのです。その100万を練り出す努力は、1

億貯めることより大変だと思いましたがね。いままでは上手くいかずに閉めた店もありますしね。海の家などもやったことがあるのですが、その夏はずっと雨で、全然うまくいきませんでした。いろいろなことをやりましたが、僕らはもともと料理もできませんでしたから、プロデューサーやディレクターなどと言って、要は雑用ばかりしてきたのですよ(笑)。

## 感動を形にして伝える 最初の気持ちが大切

僕は神戸生まれの神戸育ちなのです。若いときの神戸には、格好良いと思った大人の人がいましたね。しかしその雰囲気とか、遊び方とかに憧れていた部分と、ああはなりたくないといった反面教師的な部分があるように思います。どこか極端な人が多かったように思います。僕ならもっと面白い仕事をしようと思いましたね。いま神戸にいる、僕が格好良いと思う人は、みんなバランスが良いですよ。全国で、30代で、飲食業の分野で目立ってきている人は、

みんなつながっているのですが、みんなどこかしら似ているのですよ。みんな結局、熱いし、冷めて



いるのですよ。

震災以降、トウーストウースのテーマは、フランスの地方料理だったのです。それでヌーベルバーグ映画など、フランスの文化にはまったのです。フランスにも行き友達も増えていったのですが、向こうのお金持ちの家は、ほとんどがオリエンタルな雰囲気なのです。西洋人が使うオリエンタルな素材がとても格好良いのですよ。そしてお金持ちなほど、お茶のことかも知っているのです。その頃から、そういった雰囲気にはまっていましたね。そして「HASU」が生まれたのですよ。

これは愚痴になってしまいますが、僕らが事業をはじめた頃、神戸で前を走っていた人たちは、何も助けてくれませんでした。自分たちのネットワークで何とかしていかなければならなかったのです。いまでこそ「トウーストウースのケーキ食べたことあるよ」などと言ってもらえますが、昔は「若いやつやることなど知らない」といった雰囲気でした。自分がそういう経験をしてきているので、才能のある若い人たちには、少しでもチャンスの場をつくりたいとは思っていますね。それが僕たちの場合は店であったり、うちで働いても

らうことになります。そういう意味でも東京に出店していきたいのです。やはりやる気があり、能力が高い人ほど、よりポテンシャルの高い場所で働きたいと思います。そこで一緒に夢を見られればいいなあと思うのです。

スタッフに関しては、当然マニュアルやノウハウも必要なのですが、いちばん大事な部分はひとり一人が、なぜこの仕事を選んだかということがあることです。僕の場合は、いろいろなレストランに行つて、「美味しかった」とか「格好良かった」といった感動ですね。それを人に伝え、形にしていきたいという欲求です。すべての仕事がマニュアルになつてしまつと、感動は薄れていってしまいます。いちばん核心の部分で感動できているかが大事なのです。要は初期衝動がいちばん大切なのですよ。

それと会社の理念をスタッフに浸透させることも大事ですね。ミーティングなど、常に啓蒙させる機会には、多ければ多いほど良いですね。現場と僕との距離が、遠くならないためのシステムをつくらなければなりません。無駄なミーティングは馬鹿なミーティングです。店長クラス、料理長クラス、事業

規模の各ミーティングを、上手くリンクさせていかなければなりません。そしてどれだけ僕の意志を、会社の背骨として通せるかが重要です。

僕はチェーン店の理論というものがすごく嫌なのです。どこに行っても同じということにも、安心感があるのかも知れませんが、いまは高度成長期のやりかたでは通用しない時代だと思うのです。

お店の個性としては、パーソナルな部分が出る方がいいと思うのです。お店のデザインや雰囲気づくりの原案は、ほとんど僕が出していますね。ロゴや店舗デザインまで、自分のところでやるようにしています。ファーストインプレッションを形にするということは、すごく大事なことでと思います。自分たちの思い入れをどれだけ反映させられるかは、最初の部分で決まってきます。金銭面の問題だけで作業してしまうと、スピードは速くなりますが、どうしても熱量が下がってしまうのです。

社名のポトマックの由来はジョン・コクトーの最初の詩集から取っているのですよ。ポトマックとは、コクトーが考え出した夢の産物で、架空の怪物の名前です。後にコクトーは文章だけではなく、オール



今年6月に増床リニューアルオープンしたトゥーストゥース・ダイニングガーデン



機能性、デザインにすぐれたアイ  
テムが揃う（コラボ・ラボ）



インテリアにも随所にこだわりが見られる

## 会社の夢と個人の夢 一緒に叶えていきたい

東京進出の話はずっと以前からありました。今期からは東京出店が続くのですよ。単独でも、百貨

マイティな活動をしていくのです  
が、その原点にポトマックがある  
のです。大人の感性と、子供の感  
性が混じり合った、コクトーにとっ  
てのシンボリックな存在だったよ  
うです。これが僕の考え方に似て  
いていいなあ、と思ったのですよ。  
他の誰も考えつかない、オリジナ  
リティが欲しいですからね。

店に入ったり、いろいろなパター  
ンで出店する予定です。いちばん  
理想的な形は、個店、百貨店、S  
C、開発といういろいろな側面からの  
進出ですね。最初は主要なスポッ  
トからになると思います。

会社の事業規模も大きくなっ  
てきました。ここまでやってきた以  
上、社会性のある組織にしてい  
たいと思っています。会社も生き  
物ですから、自分より能力のある  
人間が、受け継いでいけるよう  
なものにしていきたいですね。も  
ととお店でも、50年、100年  
と続く店をつくりたいと思ってい  
ます。会社も長生きできる社会性

のあるものになってほしい。そう  
なると自ずから、夢のある若い人  
が集まってきます。会社の夢と個  
人の夢を正比例することができれ  
ば、地域にお金を落とし、活性化  
を促し、個人の夢を叶えることも  
できます。具体的な青写真ととも  
に、きっちりとした計画が必要で  
すね。僕自身は、早くリタイアし  
たいのですけどね（笑）。

仕事をやる上で、家族と過ごす  
時間や、自分の趣味は大事ですよ  
ね。昭和の働く社長さんのイメー  
ジは、家庭を放り出して、会社に  
時間を注ぎ込み、歳をとってから  
若い愛人をつくるようなイメージ  
がありますよね。そういうのは格  
好悪いと思うのですよ。バランス  
良く、家族も趣味も大事にしてい  
きたいですね。当然仕事に対して  
はガツガツしていますが、だから  
といってプライベートまで犠牲に  
するつもりはありません。バブル  
期に青春を過ごしましたが、バブ  
ル期の商売とは違い、僕らがやっ  
ていることは「ジントニック一杯」  
からの商売ですから。

株式会社ポトマック  
神戸市中央区波止場町2-18  
TEL 078-334-11274  
<http://www.toothtooth.com>